



社会福祉法人輪島市福祉会

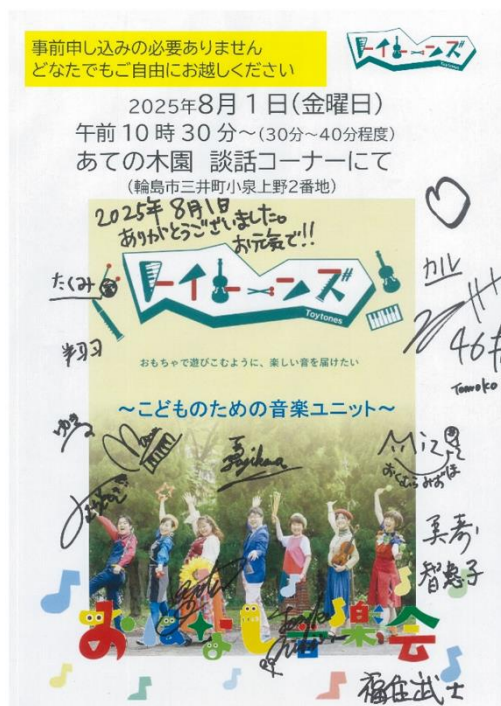
〒929-2378 石川県輪島市三井町小泉上野2番地

訪問介護、訪問入浴介護、短期入所、居宅介護支援、介護老人福祉施設

認知症対応型通所介護、配食サービス、在宅介護支援センター、日常生活支援総合事業



トイトーンズ 演奏会



- ・子どもが楽しめるように演奏する音楽ユニット「トイトーンズ」の皆さんの演奏会がおこなわれました。
- ・関西を中心に活動し、能登半島地震の被災地支援で募金集めをしており、支援金をいただきました。
- ・今回の演奏会は、町野町の「冨成ゆき」さんの協力により実現しました。令和6年能登半島地震により、現在、冨成さんは子供たちと一緒に大阪で生活を送られているそうです。少しでも、輪島が元気になればと思い、夏休みの期間を利用して冨成さんの子どもさん2名も加わり、「トイトーンズ」の皆さんと一緒に演奏会に同行していました。
- ・輪島市内ではあての木園のほか、2カ所合計3ヶ所で演奏会をしました。
- ・三井地区の方にも案内を行い、入居者やデイ利用者、地域の方と一緒に演奏会を楽しみました。
- ・ありがとうございました。

←演奏会後 励ましのサインをもらいました



「冨成ゆき」さんと子どもさん2人、トイトーンズの皆さんと一緒に記念撮影



■サマーボランティア体験



金沢高校 3年生 山本 さん 8月1日から8日まで 6日間 サマーボランティアの体験



■石川県社会福祉協議会ボランティアセンター

サマーボランティア体験事業とは
ボランティア活動への理解を深め誰もが主体的に福祉のまち
づくりに参加することを目的に、青少年から社会人まで幅広
い方々に、ボランティア活動を体験できる場を提供し、社会福
祉施設や地域で高齢者の身の回りのお世話や子どもの遊び相
手などさまざまなボランティア活動を行います。
8月1日から8日までの間 2名がボランティア体験を行いました。
体験内容は、福祉施設での利用者とのコミュニケーションや利
用者・職員のお手伝いなどに参加

←石川総合看護専門学校 1年生 岩田 さん

8月4日から8月6日まで 3日間 サマーボランティアの体験

山本さん 岩田さん サマーボランティア体験ありがとうございました

将来の目標に向かって頑張ってください

職員一同

ふれあいネットワーク 社会福祉 第321号

・石川県社会福協議会機関紙 社会福祉 2025年7月号にあての木園の特集が掲載されました

[illegible]

石川県社会福祉協議会機関紙

社会福祉

Social welfare
2025年
7月号
Vol. 321
JAN 1400000000000



特集

石川県内の社会福祉施設紹介

特別編集人 豊田あづさ
特別編集委員 水戸一夫 などの本編

さあ、もう一度

ミュージシャン豊田あづさが
輪島市福祉会フェアでライブ開催

地域の皆さんと一緒にボース！



目次 CONTENTS

特集 石川県内の社会福祉施設紹介 2

特別編集人水戸一夫あての本編

さあ、もう一度.....

・ユークン 5

・能登半島地産物販賣 地域文化会センターです！ 9

〜いりやまのしんじょ〜 関川から〜 坂田家の 9月

・福祉サービス運営公正委員会より 施設事業所の皆様へのご案内 10

・能登半島地産で社会福祉関係者が囲んだ課題と学んだこと

ホームページはこちら



■視察

8月28日 厚生労働省職員が 三井拠点の復旧状況、利用者の状況、事業継続に関する困りごと、施設見学も含め視察に来ました

※厚生労働省職員は、令和6年7月30日にも堀拠点の復旧状況、利用者の状況、事業継続に関する困りごと等施設見学も含め視察に来られました

厚生労働省 老健局長 黒田 秀郎 氏

厚生労働省 老健局 高齢者支援課長 峰村 浩司 氏

厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 課長補佐 清水 修 氏

厚生労働省 老健局 高齢者支援課 課長補佐 岡崎 優理 氏

今回、視察に来られた厚生労働省の皆さん

厚生労働省 審議官(老健、障害保健福祉担当)(社会・援護局併任)林 俊宏 氏

厚生労働省 老健局 高齢者支援課長 濱本 健司 氏

厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課 課長補佐 清水 修 氏

厚生労働省 老健局 高齢者支援課 課長補佐 岸 英二 氏



意見交換の様子



意見交換の内容

- ・令和6年能登半島地震による入居者避難の状況、在宅福祉サービスの再開の状況、避難した入居者の受入れ状況、事業再開に関すること、職員の退職及び採用に関すること等を説明
 - ・奥能登豪雨に伴う事業の影響、サービス提供状況に関すること等を説明
 - ・財政的支援(物価高騰、被災地ならではの事業継続の難しさ、人件費等の援助)を要望
 - ・人材確保に対する支援(県外からの人材派遣、被災地への応援職員の派遣等)を要望
 - ・規模を縮小せざるを得ない特別養護老人ホームの再活用の方法についての意見交換
- などの意見交換後

前田理事長と谷口施設長が災害被害復旧中の施設内を案内し、厚生労働省の職員が、施設内に働く職員の皆さんへ励ましの言葉をかけられました

■実践研究発表（訪問介護センター増田美奈子所長が発表）

START
未来につながる一歩を、石川から

石川大会 趣旨

石川県においては、令和6年能登半島地震、その後の9月の豪雨災害により、1年以上経過した現在でも、未だ休止状態にある施設や事業規模縮小を余儀なくされている施設があり、復興は、依然遠征にありまます。

さらに、全国的には、昨今の物価高騰や賃金上昇などで、高齢者福祉・介護施設の経営は厳しい状況が続いておりまます。また、少子高齢化に伴う介護サービスの需要は増加しており、人材の確保と定着が深刻な課題となっています。

このような課題に対し、介護ロボット・ICT等の導入、業務の見直しなどを進め、介護現場の生産性向上に向けて、「新たに一歩」取り組むことが求められています。

併せて、新興感染症や各地で頻発する地震や豪雨などの自然災害に備え、対応できるような施設の機能を「さらに一歩」強化することが必要です。

そのためには、これまでの経験や知識・技術をさらに磨き、時代の変化に合わせて創意工夫を重ね、多くの課題に「一歩ずつ」挑戦し続けることが必要です。

この研究大会では、東海北陸6県の関係者が集結し、先進的な研究成果を発表、討議することにより、職員の質の向上やモチベーションアップ、より質の高いサービスの提供、経営力の強化等につなげ、福祉・介護業界のさらなる発展、新しい未来のスタートとなることを目指して開催します。

参加対象

会費施設・事業所の役員様
老人福祉施設事業に関わる行政・社会福祉協議会関係者

参加予定人員

900名

参加費

10,000円
（会費と食料費に参加される場合は別途15,000円）（バスツアー代、お土産代）が別途必要です。

全体会（1日目）

9/2 tue 石川県立音楽堂ほか

12:00～13:00 受付
13:00～13:15 アトラクション
13:15～14:00 開会の辞
主催者挨拶
来賓挨拶
来賓・主催者紹介
感謝状授受

14:00～14:10 休憩
14:10～15:00 基調報告
全国老人福祉施設協議会

15:00～15:10 休憩
15:10～15:15 記念講演&トークショー
「命の授業」
講師 ゴルゴ松本氏（お笑い芸人）
MC 太早まきこ氏、南 早苗氏

16:40～16:45 次期開催地挨拶
16:45～16:50 開会の辞
17:10～17:40 分科会打ち合せ

分科会（2日目）

9/3 wed ホテル金沢
ANAクラウンプラザホテル金沢

9:00～9:30 受付
9:30～9:40 幹事挨拶、進行説明
9:40～10:00 実践研究発表（15分） 質疑応答、助言（5分）
10:00～10:20 実践研究発表（15分） 質疑応答、助言（5分）
10:20～10:40 実践研究発表（15分） 質疑応答、助言（5分）
10:40～11:00 実践研究発表（15分） 質疑応答、助言（5分）
11:00～11:10 休憩
11:10～11:30 実践研究発表（15分） 質疑応答、助言（5分）
11:30～11:50 実践研究発表（15分） 質疑応答、助言（5分）
11:50～12:10 実践研究発表（15分） 質疑応答、助言（5分）
12:10～12:25 昼休憩
12:25～12:30 閉会挨拶、連絡事項等



・令和7年度 東海北陸ブロック老人福祉施設研究大会「石川大会」
～START 未来につながる一歩を、石川から～ 令和7年9月2日(火)～3日(水) 石川県金沢市にて
実践研究 第5分科会 テーマ:未来につながる在宅サービスの新たな一歩
内容:ケアの質の向上など
発表:令和6年能登半島地震、奥能登豪雨の被災地で業務継続していく
発表者:あての木園訪問介護センター 訪問介護サービス提供責任者 増田美奈子 PC 操作 谷口広之
実践研究の発表内容

- ・自然災害の被害を受け、やむを得ず事業を休止したが、事業再開に取組んだ活動について発表する具体的な取組
- ・地域の訪問介護事業所の休業が続き、通常のサービス提供実施地域(三井・河原田地区)を拡げ、旧輪島市内全域を通常のサービス提供実施地域とした

活動の成果と評価

- ・自然災害前の状況に少しでも戻れるように、出来るところから利用者へ挨拶まわりや事業再開した案内の手紙を出した 少しずつ利用者も増え訪問回数も増えていった

今後の課題

- ・住まいの再建に見通しが立たず、施設入所や他市町へ移住する方もおり、住み慣れた地域での暮らしができなくなっている
- ・訪問系サービスに関わる介護職員や介護支援専門員が不足しており、増員することが困難
- ・要支援の方が増えてきており、訪問回数は増えてきたが介護報酬収入増にはつながらない
- ・休業している訪問介護事業所の再開見込がないため、旧輪島市内全域を対象としたサービス提供となり、訪問のための移動時間や距離が長くなり、サービス提供ができない地域がある

最後に「あすなろ」の唄を歌います。「あすなろ」はヒノキ科の木を指すだけでなく、未来に向かって努力しようとする姿を象徴する言葉。「明日は檜になろう」という想いは、自然災害の被害を受けた地域であっても成長し続けることの大切さを伝えるために思いを込めて歌います。自分自身や他者を励ます唄として、参加者の皆さんにも感動を与えました。とても素晴らしい実践発表でした。



社会福祉法人 輪島市福祉会
〒929-2378 石川県輪島市三井町小泉上野2番地
電話番号 0768-26-1661
FAX 番号 0768-26-1751
メール atenoki@skyblue.ocn.ne.jp
Hp <http://www.amusewajima.gr.jp/atenoki>

